

保全活動における環境保全型農業を推進 農産物ブランド化から6次産業へ

べつまたちくしげんほぜんかい
新潟県：別俣地区資源保全会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

環境保全活動や環境保全型農業を推進し農業と自然環境の共生を図る

【経緯】

地域の自然を題材に地域内外との交流を図るため、平成12年に田んぼの分校組織を立ち上げ、ホタル観賞会や自然観察会などを実施した。平成19年度から農地・水・環境保全向上対策事業の営農支援を受けるため、農家がエコファーマーの資格を取得したことを契機に、地域ぐるみで環境保全型農業への取り組み活動への展開となった。



魚道設置時の様子

○環境保全施設と関係情報

【環境保全施設】魚道、水田魚道、魚巢ブロック

【活用した事業等】農地・水保全管理支払交付金事業
県営中山間地域総合整備事業

【保全対象生物】ホタル、ハッチョウトンボ、他各種トンボ、イワナ、ヤマメ、ニジマス、メダカ、ドジョウ、サワガニ、カエル、サンショウウオ

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 生態系に配慮した環境整備
 - ①水田魚道の設置、補修、冬期湛水の実施
 - ・現時点で2カ所設置し、補修は年1回程度の実施
 - ・冬期水田の生物多様性維持・向上のため、冬期湛水を平成23年から実施
3. 生きもの調査指導・川遊び等の実施
 - ①田んぼや川での生きもの観察会
 - ・近隣の小学生を対象として年1回実施
 - ②ホタルやトンボの観察会
 - ・主に地域住民を対象に、年1回程度の実施
4. イベントの開催
 - ①田植えや稲刈り体験、自然観察会などの実施
 - ・地元の小学生を対象に年1回程度の実施
5. その他
 - ①環境保全型農業への取り組み
 - ②講演会や事業PR情報誌の発行等



取組みの様子



魚巢ブロックの設置

○継続した活動でこんな効果が！！



水路での生きものの調査

■生きものの種数と個体数の増加

・生きもの調査の結果、水路やその周辺の生きものが増えていることを確認できている。

■農業や自然の大切さを見直す機会の創出

・小学生を対象に実施した生きもの調査は、農業や自然の大切さを見直す機会となっている。

■農産物のブランド化

・環境保全型農業により生産された米は、「ハッチョウトンボ米」として、ブランド化している。

○課題・苦労した点

■生態系保全の知識・経験不足

・生きものや環境に関する知識や経験を持つ人が団体にいなかった。

■地域住民への保全活動のPR

・保全活動で地域活性化を図るため、地域住民に活動への関心を持ってもらうことが大切であった。

■周辺農家への理解

・保全活動に対する農家の理解を得ることが苦労した点である。

○工夫した点

■専門家への依頼や先進地視察

・博物館の学芸員や知識人からの指導、魚道について先進地を視察した。

■活動やイベント時にメディアを活用

・メディアに取り上げてもらうことや、講演会に著名人を招待などにより、住民の関心度の向上及び参加者の増加を図った。

■保全活動効果などの講演会を開催

・保全活動の講演会を実施するなど周辺農家・地域住民の理解を深めた。

○活動の特徴！！

■ブランド米を活用した6次産業

・環境配慮によって誕生したブランド米を活用した農家レストラン・ふるさと食堂等の6次産業化につなげる取組により、継続した保全活動へと繋がっている。



○団体の概要は？

- ・平成12年度に設立され、活動エリアは新潟県柏崎市別俣地区（久米、水上、細越集落）周辺である。
- ・集落自治・農業生産法人であり、人数は約50名。
- ・年間運営費は、補助金90%、その他10%となっている。
- ・年間活動日数は、約90日である。

